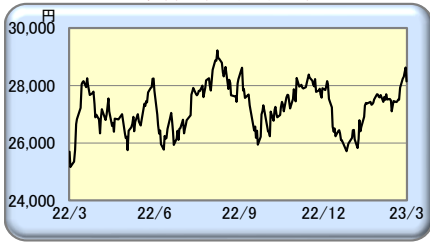
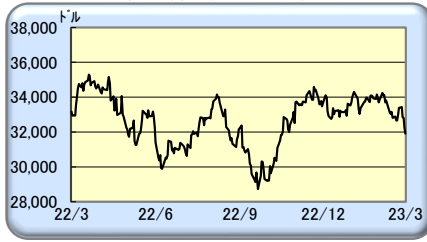


1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株 (日経平均) >



<米国株 (NYダウ) >



<円/ドル >



(注)チャートは過去1年

| | 単位 | 2022/12/31 | 2023/2/28 | 2023/3/10 | 過去3年高値 | | 過去3年安値 | |
|------|----|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
| | | (前年末) | (前月末) | (前週末) | 水準 | 日付 | 水準 | 日付 |
| 日経平均 | 円 | 26,094.50 | 27,445.56 | 28,143.97 | 30,795.78 | 2021/9/14 | 16,358.19 | 2020/3/19 |
| NYダウ | ドル | 33,147.25 | 32,656.70 | 31,909.64 | 36,952.65 | 2022/1/5 | 18,213.65 | 2020/3/23 |
| 円/ドル | 円 | 131.12 | 136.17 | 135.03 | 151.95 | 2022/10/21 | 102.59 | 2021/1/6 |

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～ 週央に円安ドル高が進行したことやインバウンド需要の回復期待から小幅上昇 ～

先週の日本株市場は、日経平均が+216.50円 (+0.78%)、TOPIXが12.06ポイント (+0.60%) となり、週央に円安ドル高が進行したことやインバウンド需要の回復期待から小幅上昇しました。業種別でみると、電気・ガス業、建設業、精密機器などの25業種が上昇した一方、鉱業、銀行業、海運業などの8業種が下落しました。

週初6日は、先々週末の米国株市場が米長期金利の低下を受けて大幅上昇した流れを引き継ぎ、日経平均はおよそ2ヶ月半ぶりとなる2万8,000円台を回復して始まりました。その後は、7日のパウエルFRB (米連邦準備理事会) 議長の議会証言がタカ派的であったことを受けて米利上げ再加速への警戒感が強まり、米国株市場が大きく下落した一方、為替市場では円安ドル高が進行したことや、中国からの渡航者向け水際対策が3月から緩和されたことに伴うインバウンド需要の回復期待などから堅調な推移が続きました。しかし週末10日は、テクノロジー業界を主要な取引先とする米金融持ち株会社が大規模な資金調達計画を発表したことをきっかけに前日の米国株市場が大幅下落したことが警戒され、週間の上げ幅を大きく縮小させて引けました。

3. 今週の主な予定

| 日程 | 曜日 | 国・地域 | 項目 | 期間 | 前回 |
|-------|-----|------|-----------------------------|-------|------------|
| 3月13日 | Mon | 日本 | 景況判断BSI大企業全産業(前期比) | 1-3月期 | ▲3.6 |
| 3月14日 | Tue | 米国 | CPI(消費者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比) | 2月 | +5.6% |
| 3月15日 | Wed | 日本 | 日銀金融政策決定会合議事要旨(1月17・18日分) | 2月 | +3.6% |
| | | 中国 | 鉱工業生産(年初来/前年比) | 1月 | ▲1.1% |
| | | 欧州 | ユーロ圏鉱工業生産(前月比) | 2月 | +5.4% |
| | | 米国 | PPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比) | 3月 | ▲5.8 |
| 3月16日 | Thu | 米国 | ニューヨーク連銀製造業景気指数 | 2月 | +2.3% |
| | | 日本 | 小売売上高(除自動車)(前月比) | 2月 | ▲3兆4,986億円 |
| | | 欧州 | 貿易収支 | 2月 | |
| 3月17日 | Fri | 日本 | ECB(欧州中央銀行)政策理事会 | 3月 | ▲24.3 |
| | | 米国 | フィラデルフィア連銀製造業景況指数 | 2月 | 1,309千件 |
| | | 国際 | 住宅着工件数 | 1月 | ▲0.4% |
| 3月17日 | Fri | 日本 | 第3次産業活動指数(前月比) | 2月 | +0.0% |
| | | 国際 | OECD(経済協力開発機構)経済見通し | 2月 | ▲0.3% |
| | | 米国 | 鉱工業生産(前月比) | 3月 | 67.0 |

| | | | |
|----------|----|--------|--|
| 決算発表予定 他 | 国内 | 決算発表 : | 3/14 神戸物産 |
| | 海外 | 決算発表 : | 3/14 フォルクスワーゲン 3/15 BMW、プーテンツァル、鴻海精密工業、アドビ 3/16 フェデックス |

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ 米金融システム不安やFRBの金融政策への不透明感から、軟調に推移 ～

今週の日本株市場は、米金融システム不安やFRBの金融政策への不透明感から、軟調に推移するとみえます。10日に米国の中堅銀行であるシリコンバレーバンクが、12日にはシグネチャー・バンクが経営破綻したことを受け、足元では米金融システム不安が高まっています。両行の経営破綻は資産・負債管理(ALM)の失敗が背景とされていることや、米財務省とFRB、FDIC(米連邦預金保険公社)が預金の全額保護を決定したことなどから他の大手銀行への波及は限定的とみえますが、当面はスタートアップ企業の資金繰りや利上げに伴う経済への悪影響が警戒されることから、株価の下落材料に働くとみえます。また、今週は米議会証言においてパウエルFRB議長が注視するとしてCPI(14日)とPPI(15日)が発表されますが、これらが根強いインフレ圧力を示すものとなれば金融引き締めへの警戒感が続き、株価を下押しするとみえます。なお、一部では金融不安を背景にFRBがハト派に転じるとの見方も浮上していますが、FRBは現状のインフレ抑制を最重要視する姿勢を維持し、引き締めの金融政策を継続するとみえます。その他の注目材料として、日本では16日の貿易収支、米国では15日の小売売上高、17日の鉱工業生産、欧州では16日のECB政策理事会、中国では15日の鉱工業生産、国際では17日のOECD経済見通しなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <https://www.alamco.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)、が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。